偉大な先人に学ぶ日本ビジネス道（第6回）

大衆に魅力的なソフトを提供し続けた小林一三

2016.11.25

現在、日本はものづくりの見直しが言われる半面、ハードビジネスからソフトビジネスへの移行が求められています。大衆に魅力的なソフトを提供して成功した先駆者ともいえる存在が小林一三（いちぞう、1873～1957）です。創意工夫に富んだビジネススタイルで「天才起業家」「アイデアの神様」とも称されています。

一三は阪急電鉄の創業者で、日本を代表する私鉄の一社に同社を育てたわけですから、インフラの提供という典型的なハードビジネスの経営者と見ることもできます。しかし、その真骨頂は、大衆が求めてやまないソフトの提供でした。

後で詳しく紹介しますが、住宅ローンの原型を生み出して「郊外の持ち家で暮らすライフスタイル」を生み出しました。世界初のターミナルデパートを梅田に開業して「手軽にぜいたく気分」が味わえるようにしました。そして、現在も高い人気を誇る宝塚歌劇団というエンターテインメントビジネスも手がけ始めました。

こうした多岐にわたる事業が、一時の流行に終わるのではなく、いずれも時がたっても事業として継続しているところに、事業家としての一三の卓越した才能がうかがわれるのではないでしょうか。

銀行マンから失業を経て、鉄道経営の道に… 続きを読む